

Presented by nme

んめ

第7話

心をノゾく山の守り猫

他
ダ
ダ
ダ

G-エッジ

GENESYS INC.

©NME

G-INT





父親から霊の存在を
執拗に否定され続けとったんか…

どうりで霊介が幼少期の記憶を
ほとんど覚えとらんかった
わけじゃわ

あのころの霊介の遊び相手
っていやあ
ドラ猫か子供の霊か

「霊なんて存在するわけねえ」
おめえがそう思うんは
勝手じゃけどな

昔の思い出まで否定
されるんは
霊介が不憫じゃろーが





あたいは傀^{ククリ}割様の
使い魔にして供魔山の番人

ちよつと…あたいのどこを
どう見たらタヌキに
見えるってえ？

名は郷狸^{サトリ}ってんだ

サトリ



なんだかややこしいのが
出てきたぞ……
番人ってなんだ……？
それに…ククリサマ……？

この町を覆う
瘴気は傀割様が発している
もの……

この町に入ってきた
ひとりの人間が原因でね
傀割様はその人間を異物と
して見ているんだけどね



そう狼狽
するんじゃないよ

傀割様は
この供魔山を
統べる巫女であり
神なるお方さ

アンタが
その人間ってワケ

キョーッ

えっ
お…俺…？

だから
アンタのその強力な気が
傀割様を警戒させてんの

普通の人間と
生気の質が違うから
あたいらには毒に
なるんだってさ

普通の人間なら干物になるまで
搾り取ってあげるんだけど

残念ながら
止められてるからね

皮を剥いで
傀割様に献上かな♪

剥

ガ

ガ

ガ…

ヤバイ……
これは話が通じない
タイプだ

早くこのタヌキから
逃げないと……

……だからさ

タヌキじゃないッ
つってんだろオ!!

あ…これ
ヤバイかも……

マジで死……

なんだ…?

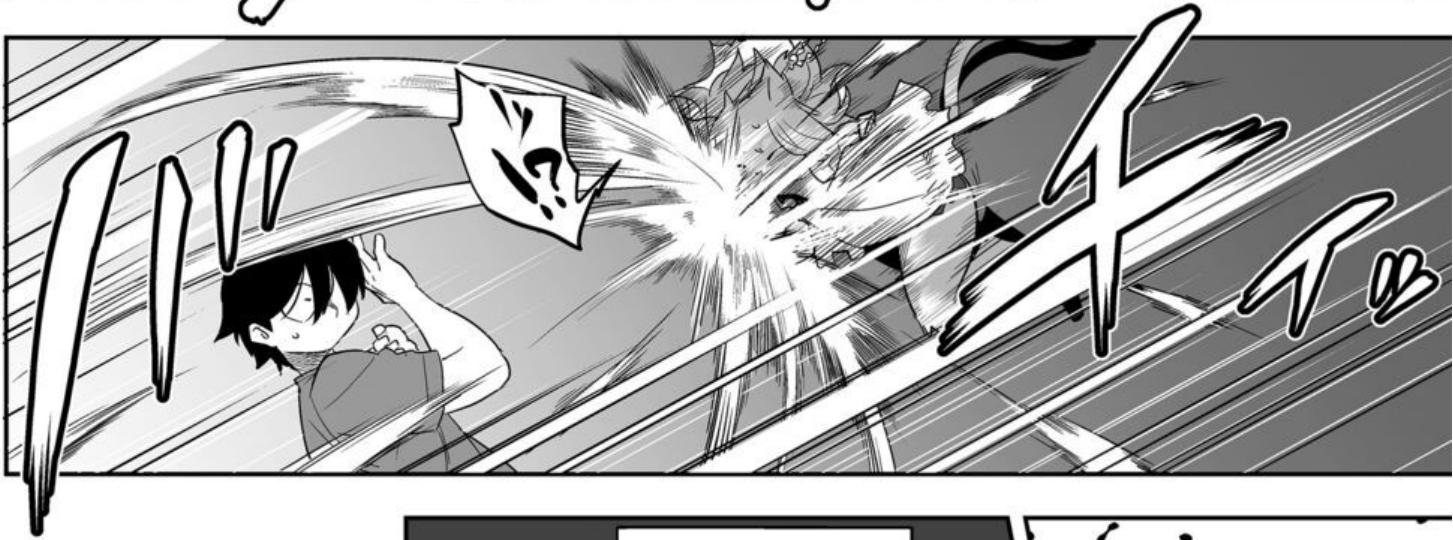
今オマエ…
何をした?

…あれ?

まあいい……
あたいには傀儡様から
授かった力がある

この「^{どくしんがん}読心眼」が
ある限り
あたいは無敵だ

さっきは感情的になって
心を読み損なっただけ……



——ッまた弾かれた

この人間……
何か巨大な存在に
も護られているっていうのか？

それも
こいつの意識でやった
ことじゃない





くそっ
なんだよこの札…
力が…入んない

人間の分際で
あたいをこんな目に
遭わせやがって……

君のご主人様…
傀儡様の居場所を
教えてくれたら
解いてあげるよ

じーちゃんに渡された
お札…持ち歩いてて
よかった

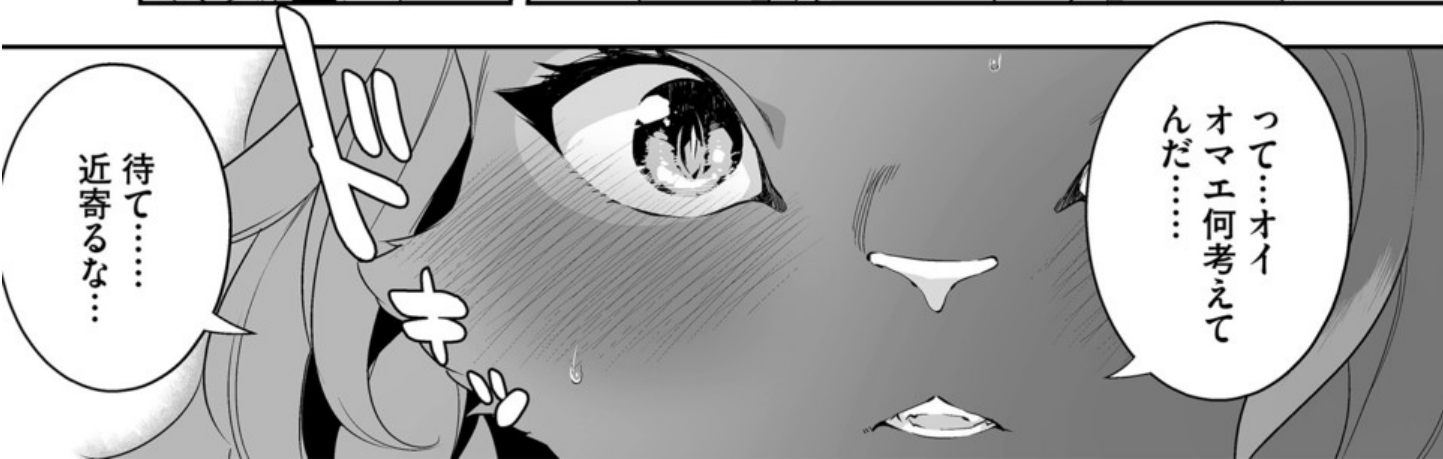


はんっ…お断りだね

そもそも主を裏切る
使い魔がどこにいる
ってんだよ

そっか…
どうしてもダメ
かあ……

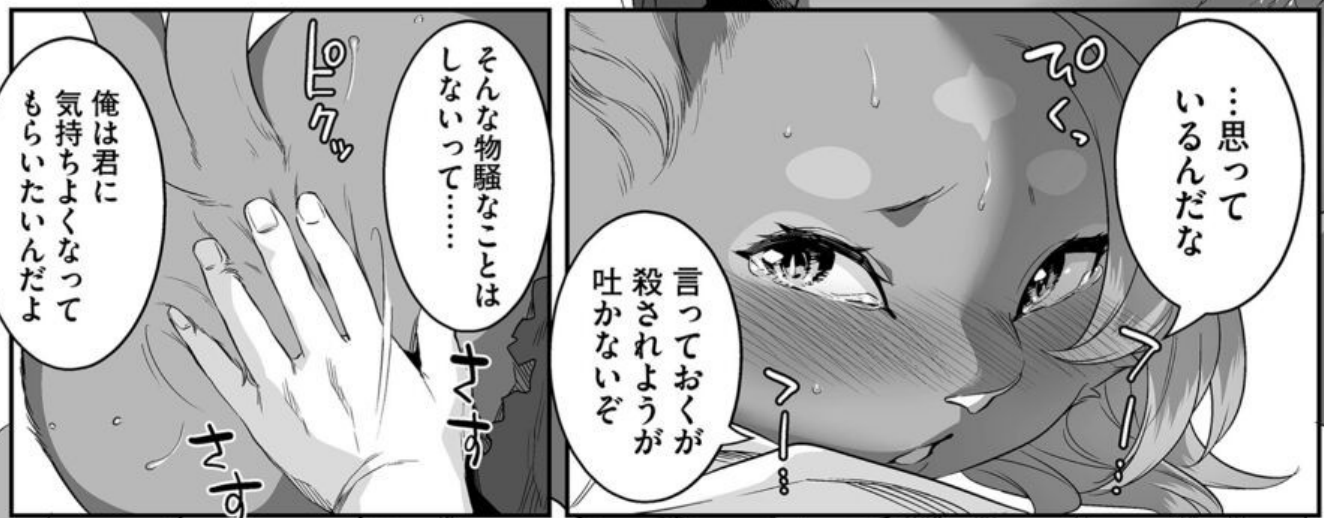
ゆーん
ㄅㄅ
ㄅㄅ
当たり前だっ



って…オイ
オマエ何考えて
んだ……

待て……
近寄るな…







そ…そんな裏切り…
あたいには……

あたい…
あたいには…

はあ…く…
傀刳様…
う…



あのさ…こんなこととして
今更かもしれないけど

その…

本当に俺は
君も…その傀刳様も
傷つけようだなんて
思ってた…

この人間…
嘘は…ついてない

むしろあたいや
瘡気で苦しんでいる
怪異たちを



救おうと必死なんだ

…わかった
傀刳様の所まで
案内するよ

約束する…
だからさ



傀奇様が……

この人間の生気が
毒だと言った意味が
わかった気がする



体じゅうの邪気が
浄化されていき
代わりに幸福感で
満たされる

どんなに赦^{ゆる}されないことでも
すべてが赦されるような
そんな感覚になってしまう

あたいには
それが恐ろしい

やっぱり君の顔
もっと見たいかも

ごめん…

それより厄介なのが
さつきから頭に響く
コイツの声だ……

ふわふわしてて
かわいいよな
……はあ

愛液の量すごいっぱい感じてくれてるんだね

キスしても
いいかなあ

どうしよう……
愛おしくなってきた





ここには傀割様によって
殺された人間たちの
靈魂が残留している

しかしそれらは
傀割様の本意ではない…
だから今も尚^{なほ}あの方は
苦しんでいるんだ



うわやバツ！
俺ちよつと
気を失ってたよね…

ドキッ

でも
この人間になら
あるいは—

？

感謝しなよ
アンタが気を失ってる間
寄ってきた悪霊どもから
守ってやったんだ

まぐわい中に聞こえてきた
アンタの気持ち
正直悪い気しなかったからさ
この先もあたいが守って…

ありがとう
本当助かるよ

でも俺の
気持ちって…?

なーんだ

思ってたより
イロオトコだった
ってワケねー

さて……
約束だからね
案内するよ

傀剗様の所まで

グアアア……



To Be Continued...

ГЕИП